

# 平成24年度 事業報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

## 1. 調査研究事業

### (1) 調査研究・提言活動

当研究所は、世界と日本が直面する重要課題について、自由な立場から、グローバルな展望の下に、政治、経済、防衛など総合的な観点をもって、適切・機敏な政策提案を目指して、研究を行った。

平成24年度は、「アジア太平洋の戦略環境の変化を踏まえた我が国の対応」を主要テーマとして、外交・安全保障、経済・財政、科学技術、教育改革、エネルギー、少子化対応等の各分野で幅広く研究を行った。所内会議で発表し活発に議論するとともに、基礎研究に資するために国内外の有識者を招いてコロキウムを開催した。

その研究成果は、政策提言等の形にまとめて、インターネットのホームページに掲載し、会員各位はじめ関係諸機関に広く配付したほか、雑誌等への論文掲載などを積極的に行った。

政策提言としては、平成24年4月9日に「大学改革試案」、平成25年1月9日に「安倍新政権への緊急政策提言」、2月4日に「国際平和協力のあり方に関する調査研究－PKO参加20年を迎えるに当たっての提言－」を発表した。

### (2) 図書・雑誌等の刊行

当研究所の研究成果をまとめた「IIPS Quarterly」を年4回（4月 第3巻第2号、7月 第3巻第3号、10月 第3巻第4号、2月 第4巻第1号）発行した。関係各方面に配付するとともに、ホームページに掲載した。また、外務省国際問題調査研究・提言事業費補助金を受け、抜粋の英語版をホームページに掲載した。

当研究所の英文論文雑誌「Asia-Pacific Review」を年2回（5月 Vol. 19, No.1、11月 Vol. 19, No.2）を発行した。関係諸機関に配付するとともに、英国の出版社を経由して全世界に販売した。

### (3) 研修の受入れ

5月から12月まで、陸上自衛隊幹部学校幹部高級課程（AGS）の学生5名に対し、部外講師、当研究所の役員、研究顧問、主任研究員等による研修を実施した。

## 2. 国際交流事業

### (1) 日韓戦略対話「第3回 東京－ソウル フォーラム：未来志向の日韓戦略協力」

平成22年より、ソウル国際問題フォーラムとの共催で、東京とソウルで毎年交互に国際会議・公開シンポジウムを開催し、日韓の意思疎通のための戦略対話を実施している。

当期は、7月13日、14日、日本財団の助成を受け、東京において国際会議を開催し、日韓両国の政界、財界、学会から約30名が参加し、各国指導者の交代と安全保障への影響、地域経済協力、将来に向けた日韓戦略協力について議論が行われた。13日には公開シンポジウムを開催し、パネリストによる議論が展開され、東アジアにおける各国指導者の交代とその影響、日韓経済協力のあり方、将来に向けた日韓戦略協力などが活発に話し合われた。

### (2) 「日米韓トラック1.5：アジア太平洋回帰と同盟の強化：第7回 北東アジア三カ国対話」

平成20年より、米国平和研究所（USIP）および韓国外交安保研究院（IFANS）と共催で、議会関係者及び政府間の協調体制の構築と具体的な協調政策案の創出を目的として、「日米韓トラック1.5」を実施している。

当期は、9月24日、25日、外務省国際問題調査研究・提言事業費補助金及び日本財団の助成を受け、東京において、国際会議を開催した。日米韓各国の外務・防衛の政府関係者・専門家など約40名が参加し、米国のアジア太平洋回帰とその影響、北朝鮮新体制の行方、国内政治と日米韓協力を議題として、活発かつ有益な意見交換が行われ、グローバル化する世界の中で、日米韓三カ国が今後どのような協力を行うかについて、具体的な政策アイデアの創出が話し合われた。25日には「2012年の政権選択と外交：日米韓関係への影響」をテーマに公開シンポジウムが開催され、パネリストによる活発な議論が行われた。本会議・シンポジウムの模様は、読売新聞、日本テレビ、韓国中央日報、韓国聯合ニュースなどで報道された。

### (3) 「日台フォーラム」

平成14年より台湾側と対話交流を実施しており、当期は、日本財団の助成を受け、台湾の两岸交流遠景基金会との共催で、台北において、10月27日、28日に国際会議、を開催し、新たな世界秩序と東アジア地域の安全保障、世界経済の動向と東アジア経済等に焦点をあてて、東アジア地域全体の情勢分析と将来展望について意見交換を行った。

(4) 「日本・インド・ドイツー変化する世界の中で」

当研究所は、平成23年より、ドイツのアデナウアー財団、ベルリン日独センターとの共催で、「日独フォーラム」を実施している。

当期は、日本財団の助成を受け、3月26日に、東京において、公開シンポジウムを開催し、Elmar Brok 欧州議会外交委員長、川口順子 元外務大臣・参議院議員、Shyam Saran 国家安全保障諮問委員会メンバー・元印外務事務次官による基調講演に続いて、パネリストにより、「共通の価値：多極化する世界で責任を共有するための日印独の基礎」、「アジアの経済的台頭：世界経済に対する可能性と課題」、「不確かな世界：アジアにおける安全保障に関する論争と挑戦、欧州への影響」について活発に議論を行った。

(5) 公開シンポジウム「各国の政権交代と外交方針の変化」

外務省国際問題調査研究・提言事業費補助金を受け、「政権交代に際しての外交の持続性」研究会を行ってきた。3月21日に、国際大学との共催で、国際大学（新潟県南魚沼市）において、公開シンポジウムを開催した。日本でも政権交代が行われたが、異なる政党による政権がどのように外交方針を変化させるかについて、ドイツやイギリスなどの世界各国と比較し検討を行った。

3. 中曽根康弘賞表彰事業

第8回中曽根康弘賞については、4月20日に運営委員会を開催し受賞者3名を決定した。6月29日、授賞式を開催し、Robert D. Eldridge 氏（米国）に優秀賞、Zubaidullo Ubaidulloev 氏（タジキスタン）、田中千草氏（日本）に奨励賞を授与した。

第9回中曽根康弘賞については、7月1日から1月31日まで募集を行い9名の応募があった。2月25日に選考委員会を開催し授賞候補者3名を選定した。

## 平成24年度 所内会議

開催日	テーマ	発表者
4月9日	日中歴史認識問題の歴史	上席研究員 川島 真
4月16日	団塊ファシズムの出現?	主任研究員 藤 和彦
4月23日	オバマ政権の評価と2012年大統領選挙	久保 文明 東京大学教授
5月7日	イラン核開発の行方と我が国への影響	主任研究員 大澤 淳
5月21日	急がれる「実証分析に基づいた政策の企画立案」の実現	主任研究員 清水谷 諭
6月4日	Daron Acemoglu and James Robinson(2012): Why Nations Fail を読む	研究顧問 小堀 深三
6月11日	最近のエネルギー事情とわが国の対応	主任研究員 国分 克悦
6月18日	いわゆる「人道的介入」—理論の進展と実行—	主任研究員 河原 節子
6月25日	日本外交の新しい理念と政策	上席研究員 細谷 雄一
7月2日	メコン地域におけるミャンマーのダイナミズム	主任研究員 吉岡 孝昭
7月9日	統合ミッションの現状と今後の日本の PKO 派遣における課題—軍事部門に必要な能力と課題を中心に—	主任研究員 小林 貴
7月23日	インターネットの変容と危機論	主任研究員 新山 康夫
9月10日	3.11 東日本大震災以降のわが国地価関連動向について	主任研究員 大濱 裕
10月1日	政策稼働型(policy-driven)科学技術	研究顧問 薬師寺 泰蔵
10月15日	欧州のエネルギー政策 EUの共通政策とドイツの現状	主任研究員 清水 幹彦
10月22日	顕在化する脱原発世論と国家エネルギー戦略の行方 原発是非論検証と理性的世論形成のための一考察	主任研究員 井出 智明
10月29日	インドの外交・安全保障政策	伊豆山 真理 氏 (防衛研究所)
11月5日	諸思想と市場	主任研究員 和佐 健介
11月12日	米海軍特殊線部隊の歴史—現場主義の非正規戦部隊—	研修員 由井 暁生
11月19日	「古い」の価値復権へ(スピリチュアル立国のすすめ)	主任研究員 藤 和彦
11月26日	尖閣諸島領有をめぐる歴史的根拠の日中比較	上席研究員 川島 真
12月3日	緊迫化するアジアの安全保障環境	主任研究員 大澤 淳
12月10日	オバマ大統領のグローバル・チャレンジ	研究顧問 小堀 深三
12月17日	東南アジアに多民族主義を学ぶ(シンガポール、インドネシアの事例)	主任研究員 国分 克悦
1月21日	和解—そのかたちとプロセス	主任研究員 河原 節子
1月28日	少子化と女性を巡る環境	主任研究員 市川 恭子
2月18日	日本の社会保障を巡る諸問題	常任研究顧問 大来 洋一
3月11日	英米関係の歴史—「特別な関係」の実際—	上席研究員 細谷 雄一
3月18日	米国で再び注目を浴びる製造業	主任研究員 新山 康夫

## 平成24年度 コロキウム

開催日	テーマ	講師
4月25日	イスラム問題を考える基本的考え	山内昌之 東京大学教授
6月28日	エジプト大統領選挙と中東情勢への影響	鈴木恵美 早稲田大学准教授
7月17日	サハリン・東シベリア石油・ガスと広域パイプラインの展望	本村真澄 石油天然ガス・金属鉱物資源機構主席研究員
10月3日	ロシア情勢と日露関係	宇山秀樹 外務省欧州課ロシア課長
12月20日	ワシントン勤務を終えてー最近の米国情勢ー	藤崎一郎 前駐米大使
1月22日	韓国を理解するために	武藤正敏 前韓国大使
2月21日	日本と中央アジア	Z. ウバイドゥロエフ タジキスタン科学アカデミー研究員

## 第 8 回中曽根康弘賞受賞者（2012 年 6 月 29 日授賞・対外発表）

1 Robert Eldridge（ロバート・エルドリッチ）（優秀賞）

年齢：1968 年 1 月 23 日生れ（44 歳） 国籍：米国

所属：在沖縄米海兵隊 外交政策部次長

選考理由：日米関係史を専門に研究するとともに、現在の日米関係の重要性について論壇の場において積極的な発言を行ってきた。とりわけ、日米のホットな問題である沖縄について深い認識を示す業績があった。その知見をもって 2009 年に大学教員の職を辞して、在沖米海兵隊外交政策部次長として沖縄問題の解決と日米関係の緊密化のための努力を行い、東日本大震災後の米軍の「トモダチ作戦」の遂行にも大きく寄与してきた。

これらの提言や活動は、日米関係に動揺や相互不信が広がりつつある中で、両国間の安定や友好関係に資するものであり、国際関係における平和と安全の確保に多大な貢献を果たすものとして、大いに評価されるものである。

2 Zubaidullo Ubaidulloev（ズバイドゥロ ウバイドゥロエフ）（奨励賞）

年齢：1973 年 8 月 29 日生れ（38 歳） 国籍：タジキスタン

職業：筑波大学人文社会科学部 研究員

選考理由：日印関係の研究において、アジアの地政学的関係を踏まえ、インドや他の国における文献等を元に、第二次大戦後におけるジャワハルラール・ネルー印首相達が、勝者が敗者を裁く「東京裁判」史観に疑義を持ち、いかに親日的な対日姿勢を持つに至ったかを分析し、その姿勢がアジアの平和と安定をもたらしたと論じている。さらに、日印両国はともに民主主義という価値を共有し、今後とも両国及び価値を共有する他の国々との連携の強化がアジア地域に重要な影響を与えることにも触れている。これらの研究は、アジアの平和と安全の構築に重要な示唆を与えるものであり、今後、その研究が大いに期待されるものである。

3 田中 千草（たなか ちぐさ）（奨励賞）

年齢：1978 年 6 月 28 日生れ（33 歳） 国籍：日本

所属：カンボジア アナコット代表（小学校教諭）

選考理由：ポルポト政権下での大虐殺により教育システムが崩壊したカンボジアに青年海外協力隊の一員として現地に小学校教諭として赴任し、任期満了後においても、現地の人々からの熱望に応え、再び個人として無償で現地に赴任して支援活動を継続している。自ら子供たちに音楽や体育を教え、里親としての支援活動を進める一方で、校長補佐として学校運営の助言、教員の指導等に努め、現地の荒廃した教育システムの再構築に尽力してきた。このような地道で献身的な支援活動は、フィールドで活動する人を賞揚し、さらに今後の若い世代の活躍を期待するという中曽根康弘賞の趣旨にふさわしい人物である。

## 第9回中曽根康弘賞受賞者（2013年6月25日授賞・対外発表）

（スピーチ順）

1 中井 隆陽（奨励賞）

年齢：1966年11月6日生れ（46歳） 国籍：日本

所属：医療通訳研究会 (MEDINT) 看護部会、医療法人瑠璃会 AY クリニック 看護師

選考理由：医療看護分野の国際協力ボランティアに積極的に取り組み、青年海外協力隊の一員としてコートジボアール、マダガスカルで看護活動に従事し、国際緊急援助隊や特定非営利活動法人災害人道医療支援会 (HuMA) 等の登録看護師として参加しパキスタン、ハイチの大地震、フィリピン、パキスタン、タイの水害による被災者の緊急支援に取り組んできた。現地では設備や物資が不足するという厳しい状況の中で、現地の医療事情、風土、文化を理解し、現地の人に寄り添う看護を行ってきた。また、国内では、医療通訳研究会看護部会を看護師仲間とともに結成し、言葉や文化の異なる在留外国人の看護の理解を深める講座を開催し、看護師の人材育成に貢献している。このような国際的な支援活動は称賛に値する。

2 道下 徳成（奨励賞）

年齢：1965年8月26日生れ（47歳） 国籍：日本

所属：政策研究大学院大学准教授

選考理由：近年の中国の急速な台頭や北朝鮮情勢の不透明化に伴い、東アジアの戦略環境が大きく動揺している。そのような中、安全保障分野の研究者として国内外のメディアや学界で、日本の防衛政策や朝鮮半島情勢などの積極的な情報発信を行っている。とくに、日本の安全保障政策に関する理解が必ずしも十分とは言えない海外メディアで解説記事を連載し、またインタビューに頻繁に応じて日本から見解を示し続けていることは、日本の国益に資するものである。日本の安全保障政策に関する実務と学問を熟知し、欧米の政策コミュニティにも幅広いネットワークを有する数少ない専門家であり、国際関係における平和と安全の確保に寄与している。今後の活躍が大いに期待される。

3 ダイアン吉日（奨励賞）

年齢：非公開 国籍：英国

職業：英語落語家

選考理由：古典落語から創作落語まで、英語と関西弁をまじえたユニークあふれる落語により、日本人だけでなく外国人をも魅了し、日本の伝統文化の素晴らしさを伝える活動に取り組んでいる。米国や英国など海外公演では英語落語を通じて日本人の生活や感情を外国人に伝えている。一方で、新作落語「ワンダフル・ジャパン」では、来日した外国人が体験する驚きや出来事を落語にして、外国人の気持ちを日本人に伝えている。英語と関西弁をまじえた落語は英語を学び始めた日本人にも英語の勉強になる。茶道、華道、着物にも精通し、日本人以上に日本の伝統文化を熟知していると言っても過言ではない。日本人が忘れかけている日本の伝統文化をこよなく愛し、私たち日本人にその良さを思い出させるとともに、日本と海外の文化の懸け橋となる国際的な活動を高く評価する。